

経済マンスリー

[原油]

原油市場を取り巻く環境（1 月）

1. 原油価格の推移

1 月の原油価格は、月初に米国とイランの対立激化を受け急騰し、一時 65 ドル台（WTI 期近物 1 バレル当たり、以下同）まで上昇した。その後、両国が抑制的な対応をとったことで本格的な武力衝突は回避され、中東情勢を巡る緊張が後退したこと等を背景に、59 ドル台まで下落した（後述）。足元では、中国で新型肺炎感染拡大の、経済活動への影響に関する懸念が広がったため一段と下落し、53 ドル台で推移している。

2. 需給の動向

（1）需要

昨年 10-12 月期の需要実績は 10,145 万バレル（日量、以下同）、前年比+1.9%と、原油消費世界第 2 位の中国や第 3 位のインドを中心に需要が伸びた。

（2）供給

10-12 月期の供給実績は 10,119 万バレル、前年比▲1.0%と減少した。米国による制裁でイラン産原油の供給量が大幅に減少していることや、原油価格の下支えを目的として協調減産に取り組む OPEC プラスの供給減が主因である。なお、OPEC 諸国の 12 月の減産順守率は 181%と、減産目標を大幅に超過達成している。

（3）需給バランス

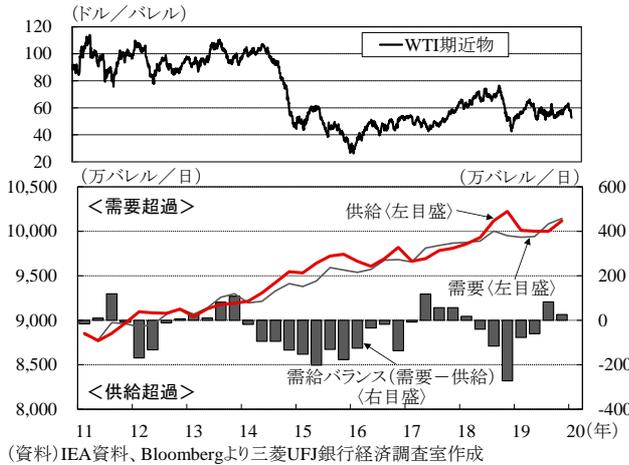
上述の結果、10-12 月期の原油需給バランスは、2 四半期連続で需要超過となった。前期はサウジアラビアの供給障害による影響が大きく 83 万バレルの需要超過であったが、今期は 26 万バレルの需要超過となり、需給バランスは均衡に近づいた。

3. 今月のトピックス

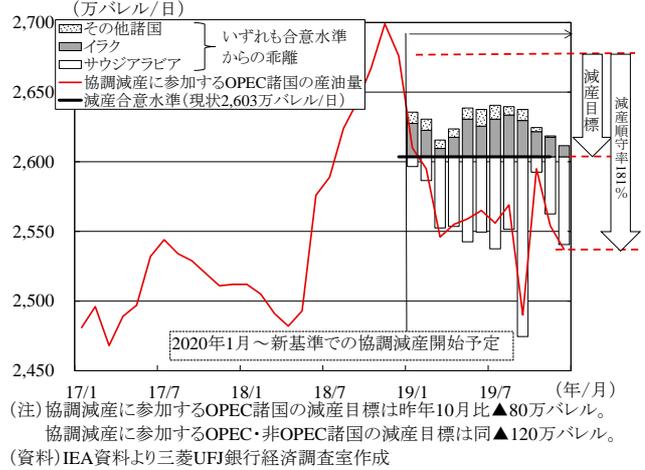
今月 2 日（現地時間、以下同）に米国がイランの要人を殺害したことに端を発し、中東情勢が緊迫化した。8 日にイランがイラク国内の米軍駐留基地に対して報復攻撃を行うと、両国間の緊張が一層高まったが、両国ともに更なる対立激化を望まない意向を示したことで、原油価格についても落ち着きを取り戻した。

対立激化が原油価格に与えた影響を先物カーブで確認すると、昨年 9 月のサウジアラビアの石油関連施設攻撃時とは異なる値動きがみられた。今回は情勢緊迫化前後の価格上昇幅は約 2 ドルと比較的小さいうえ、3 年先以降上昇していない。これは実際に供給障害が生じたことで防御態勢が懸念され、リスクが中長期的な形で価格に織り込まれたサウジアラビアの事例とは対照的といえる。イラン産原油が米国による制裁の影響で元々著しく減少していたことや、海峡封鎖等の動きが報じられなかったことから、原油市場では今回の事象が大規模かつ中長期的な供給減に繋がるものとは見做されなかったと考えられる。

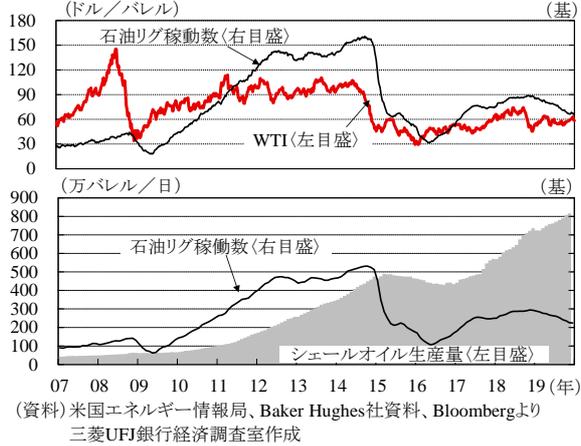
原油価格(WTI期近物)と世界の需給バランスの推移



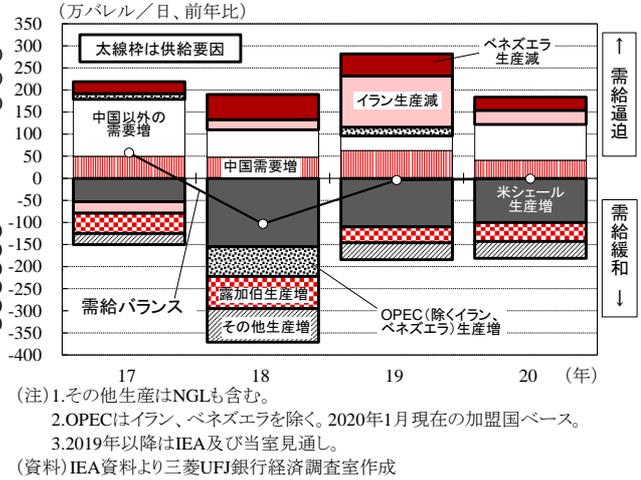
協調減産に参加するOPEC諸国の産油量の推移



原油価格と米国の石油リグ稼働数及びシェールオイル生産量の推移



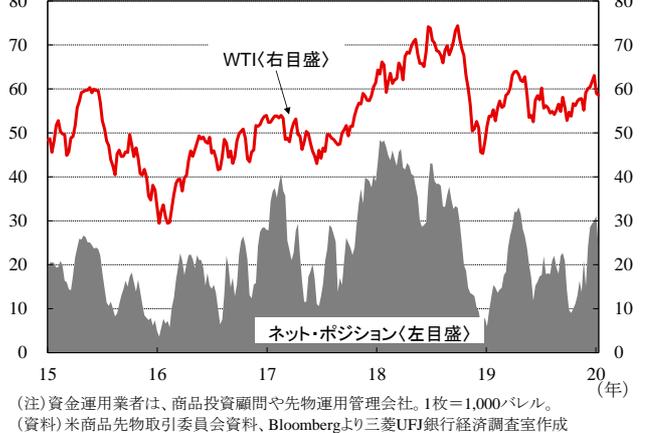
原油の需要・供給の増減と需給バランスの推移



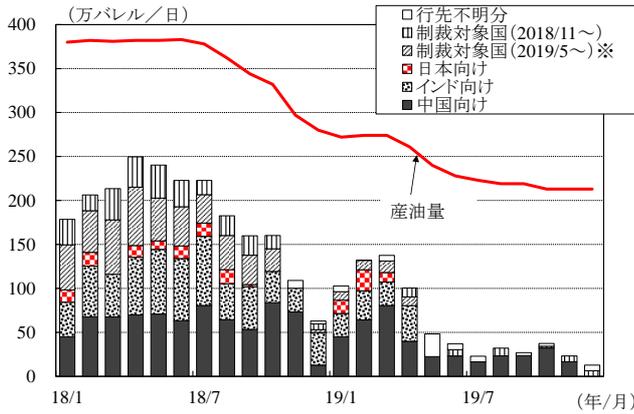
原油価格と米ドル実効為替相場の推移



原油価格と投機筋(資金運用業者)のネット・ポジションの推移

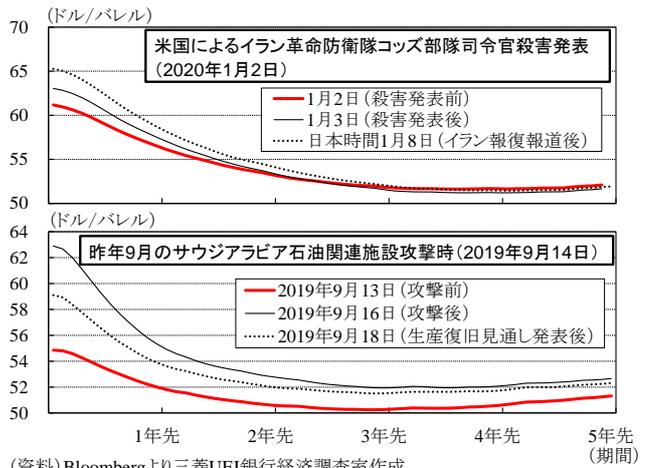


イランの産油量と輸出量の推移



(注)『制裁対象国(2019/5~)』とは、韓国、トルコ、台湾、イタリア、ギリシャをさす。
 (資料)IEA資料、Bloombergより三菱UFJ銀行経済調査室作成

原油先物カーブ(WTI)の推移



(資料)Bloombergより三菱UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱UFJ銀行 経済調査室 廣中 愛弓 ayumi_hironaka@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいませよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。